

第16回横浜支部通常総会が開催されました。

日時 : 平成21年6月20日(土)
14:00 開催 (13:30より受付)

場所 : 横浜メディアビジネスセンター1Fプラザ
(横浜市中区太田町2-22)

○総会

総会議案

1. 平成20年度活動報告
2. 平成20年度収支決算報告・監査報告
3. 平成21年度活動計画案
4. 平成21年度収支予算案
5. 役員改選

来賓 (敬称略)

まちづくり調整局長	相原 正昭
横浜建築事務所協会会長	名取 邦孝
神奈川県建築士会会長	藤田 武

○講演会(敬称略)

講師 藤森 照信

○懇親会 : 17:00~

タイトル	1
支部長 挨拶	2
支部総会	3
	4
美術館建築シリーズ	5
神奈川県立近代美術館 葉山	6
	7
第15回ハイキング紀行	8
丹沢 矢倉岳	9
テニス同好会だより	10
	11
絵画同好会だより	12
第26回ワイン同好会	13
民家めぐり~1	14
旧柳下邸	15
京都 国宝を巡る旅	16
私の一枚	
平成21年度活動計画	17
横浜支部組織図	
○ おしらせ	18
編集後記	

ご挨拶

盛夏の候、横浜支部並びに賛助会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。また日頃より横浜支部に対し格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さる6月20日には横浜市まちづくり調整局立花局長をはじめ、多数のご来賓、ご臨席を賜り、平成21年度横浜支部総会が開催され、ご参会の支部会委員の皆様のご賛同を頂き無事に総会を終えることができました。

さて、建築業界はアゲンストの風が吹き荒れ、ビジネスにとって先の読めない厳しい経営環境に直面しています。この環境は単なる短期的、循環的な変動でなく、さまざまなパラダイムの転換の時ととらえられます。

変動の時代こそ、バック・トゥ・ザ・ベイシックス。「基本に還れ」であり、基本に忠実でなければなりません。

この状況をあえて前向きに好機ととらえ、建築士はデザイン、技術、マネジメントの総合力を養うとともに業務に誠実に向きあう姿勢を一層磨き上げるチャージの時と考えたいものです。基本さえしっかりしていれば、どんな時代にもしなやかな変わり身をしながら、したたかに生き抜けることも可能です。

やがて来るホローの風にそなえ、ぜい肉のない筋肉質の身体で柔軟に難局を乗り切りたいものです。

次に事業活動ですが、各委員会は事業毎のコラボレーションや競い合うことで刺激となり事業内容も充実し実績も上っております。

人気の高い事業には、他支部からの応募や一般市民からの問い合わせが寄せられるなど、支部活動への関心も高まり、外部に支部活動を理解して頂く絶好のチャンスととらえ大切にしたいと思えます。

横浜支部は発足以来、支部会員に特化した事業活動を展開してきましたが、社会の建築士に対する関心が高まるなか、支部は活動状況を開示し、正しく理解していただくことは責務であり、建築士の社会的評価につながると考えます。

そこで、活動のスタンスを内なる会員に特化した事業から、徐々に外なる社会を意識した活動へと切り替える機会と判断いたしました。

当面は会員に沿った事業展開を基本としつつ、段階的に支部外会員の受け入れと一般市民の参加方策の検討や、きたる9月4日に開催される横浜市まちづくり調整局実施の「建築確認セミナー」に支部が共催事業者として名乗り参加表明するなど、市の各種事業に参加、協力を重ねることで、支部の存在を外部にアピールできると考えています。今後、具体的な内容については委員会等で議論を深め、方向性を出してまいります。

終りにあたり、横浜支部役員一同は心を引き締め事業に取り組んでまいります。会員並びに賛助会員の皆様には、引き続き各種事業に参加いただくとともにご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、横浜市まちづくり調整局をはじめ、関係団体におかれましては、横浜支部に対し格別のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

横浜支部長 南 利幸

第16回 横浜支部総会（平成21年6月20日）

Y150の関係で、市内はあちこちでイベントが盛りだくさん。今年の支部総会は、なかなか会場が押さえられず、結局、メディアビジネスセンターのプラザで開催されました。

歩行者から丸見えの、とても開放的な場所でしたが、通常総会はいつもどおりに粛々と。こちらが慣れてしまえば、この開放性、格好の市民向けアピールにもなりそうです。



受付



会計報告



初司会



議長



委員会報告（広報）



委員会報告（技術・情報）

さて、今年の講演は、建築探偵でおなじみの藤森照信さん。会場は、ごらんとおりに。



講演は、これまで藤森さんがみた建築物の中から、お気に入りの三点（ポルトガルの巨岩の家、アフリカの泥のモスク、鳥取の投入堂）からスタート。骨董の世界では、真贋を見極める目を育てるには、ただひたすら本物を見続けるに限るそうですが、私たちには奇妙に思えるこの三点も、建築の目利きともいえる藤森さんの説明を聞くと、自然、風土、脳の構造、慣習、信仰…。「これは面白い」という理由が、実に多くの切り口（見方）、しかもそれが個人的な趣向でなく、当時の社会性や技術力を含んだ視点によって、支えられていることが分かります。

講演は、中盤に入ると自作の紹介へ。焼き杉、銅板、土、割り板、わら、緑化、植栽…。「構造や設備をやると危険だからと、なかなかやらせてもらえない。もっばら仕上げばかり。」と笑っていましたが、まだまだ藤森流の仕上げ開拓魂は健在なようで、これからも楽しませてくれそうです。

最後は、最近こだわり始めた茶室。やはり、待庵（宇宙人が地球侵略したら、これだけは持って逃げたいと、雑誌に書いてあった。）が出てきました。先の支部京都ツアーでは、実物を見た人も多はず。ダ＝ビンチの人体図が二帖サイズに収まったスケッチで、待庵の謎を説明されていましたが、後世の専門家にこれだけ意識される千利休という人が、ますます魅力的に思えました。



個人的には、赤瀬川源平さんの文章が好きで、今でも本屋で、彼の改名前のデビュー作を探しているほど。自分の場合は「我輩は施主である」という本から、文中のF森先生を見つけ、十年前には、「タンポポハウス」を目指して、JR中央線の某駅周辺をウロウロと探し回り、探偵さんの自邸を見つけて喜んでいました。

それが今回のように実際にお会いすると、ご当人とは何だか話しづらい。当時は道路から見ただけで、ご迷惑をおかけしたわけではないけれど、塀がないので、庭や居間や屋根のタンポポを許可なく見てしまったのは事実。今さら「すいませんでした」とも言い出せず、右の写真のように、気さくに話すことにも気が引けて…。

見学は正々堂々に行わないと、あとでこういう気持ちになることもあるのだ、と少し反省した講演会でもありました。

技術・情報委員 田川尚吾

『美術館建築シリーズ ～実務者に聞く～』

平成 21 年 3 月 28 日(土)

支部見学会

横浜支部では、美術館建築シリーズとして、一昨年「国立美術館」、昨年「横須賀美術館」に引続き「神奈川県立近代美術館 葉山」の見学会を開催しました。

桜の開花が早まるとの予想に反して、当日は、肌寒い曇天の中で、集まった参加者は 20 人。当日は、神奈川県立近代美術館企画課長の水沢勉氏、設計を担当した佐藤総合計画主任担当の香月文子氏などから近代美術館の歴史、運営方針、設計概要などの講義をお聞きした後、美術館内外をつぶさに見学することができました。

《神奈川県立近代美術館 葉山》

2003 年 3 月竣工の葉山館は、葉山一色海岸と三が丘山にはさまれた豊かな自然環境の中に建設されています。延べ床面積約 7,111 m²、展示室総面積 1,297 m²、地上 2 階、地下 2 階の鉄筋コンクリート造で、設計はプロポーザル方式によって決定さ



【中庭から三が丘山の眺望】

れた佐藤総合計画が担当しました。

葉山は御用邸のある町として知られる自然豊かな由緒ある別荘地です。こうした環境の中にスタートした美術館は展覧会活動とともに近年社会的要請が高まっている普及活動を展開するための諸施設の確保、レストラン、ミュージアムショップ、駐車場といったアメニティ施設の充実など、美術館の運営方針に応じて建設されています。



【海岸に面したレストラン】



【美術館から一色海岸の眺め】



【海を意識した回廊】

《設計からPFIの導入へ》

本館は、2001年全国で美術館としては初めてのPFIによる建設事業としてスタートしました。(BOT方式による30年間事業)PFIの導入が決定した段階で設計が終わっていたため、設計からのPFI方式とは違い美術館の要望を反映した設計図が要求水準となり、建設及びその後の維持管理・美術館支援業務をPFI事業として発注した案件です。美術館のようなデザインなど総合的評価が高い建築が、コスト優先になりがちなPFI方式による発注方式を取ることは、賛否の分かれるところですが、「本事業のように設計が完了し発注者の意向を反映させる仕組みが担保させることが、その一つの回答になるのではないか。」との説明を受けました。また、美術館のもうひとつの楽しみであるレストランやミュージアムショップの採算部門は、公共事業では成功している事例は多くありませんが、本美術館は民間の活力を生かした事業展開による成功した事例だそうです。

《展示室での試み》

作品を展示する展示室は、シンプルな4つのホワイトキューブで構成されています。空調の吹き出し口、ライティングダクトの取り付け、床コンセントなど、作品鑑賞の妨げにならないようディテールが工夫されています。

展示室は、設計時に学芸員からの意見により自然光を取り入れるという方針が、ビルディング・プログラムで決まっております。その結果、光環境の美しい展示室が実現されています。4つの展示室のうち3つの展示室が自然採光を取り入れており、展示室(1)は、大きな展示物がきれいに見えるよう壁に沿ってトップライトを設けています。12M×12mの正方形の展示室(2)は、全面



【設計担当の香月氏の説明】



【美術館内から三が丘山の眺望】



【参加者の集合写真】

を光天井として、天空光を取り入れています。展示室（3）は、海側に大きく開かれた開口により葉山の環境を積極的に取り入れています。自然光は、天候により変化することから、トップライト内は、すべて白く塗り、光の反射率を高め、自然光を2回リバンドさせることで、光のコントラストを均一にするよう配慮されています。

《保存環境》

収蔵庫は、必要な空調条件を確保するとともに、①温度変化の受けにくい地下に配置、②収蔵庫内壁と外壁の間にトレンチを設け空気層を確保、③内壁は仕上げ材と躯体の間に空気層を設け断熱を図ることなどの建築的な対応により、空調に頼らない恒温恒湿の保存環境を実現しています。また、コンクリート建物内には、築後約2年間はアルカリガスの濃度が高く、美術品に悪影響を及ぼすことがあるため、コンクリート打設後、型枠解体後4～10日以内に高圧洗浄を行うなどの対策を講じた結果、アルカリガス濃度は文化庁の推奨値に近似する状況の結果が得られています。



【収蔵の保存環境を見学】

《見学会風景》

参加者は、まず、講堂で水沢課長や香月主任からていねいな説明を受け、活発な質疑のあと、展示室を案内されました。展示室を見学したあと、屋上から展示室のトップライトの中を見せてもらい、説明を受けた内容を確認することができました。また、一般には立ち入ることができない収蔵庫や皇室対応用の応接室など、バックヤードも見学することができ、見識を高めることができました。また、美術館の中からだけでなく、外周四方からも案内頂きました。

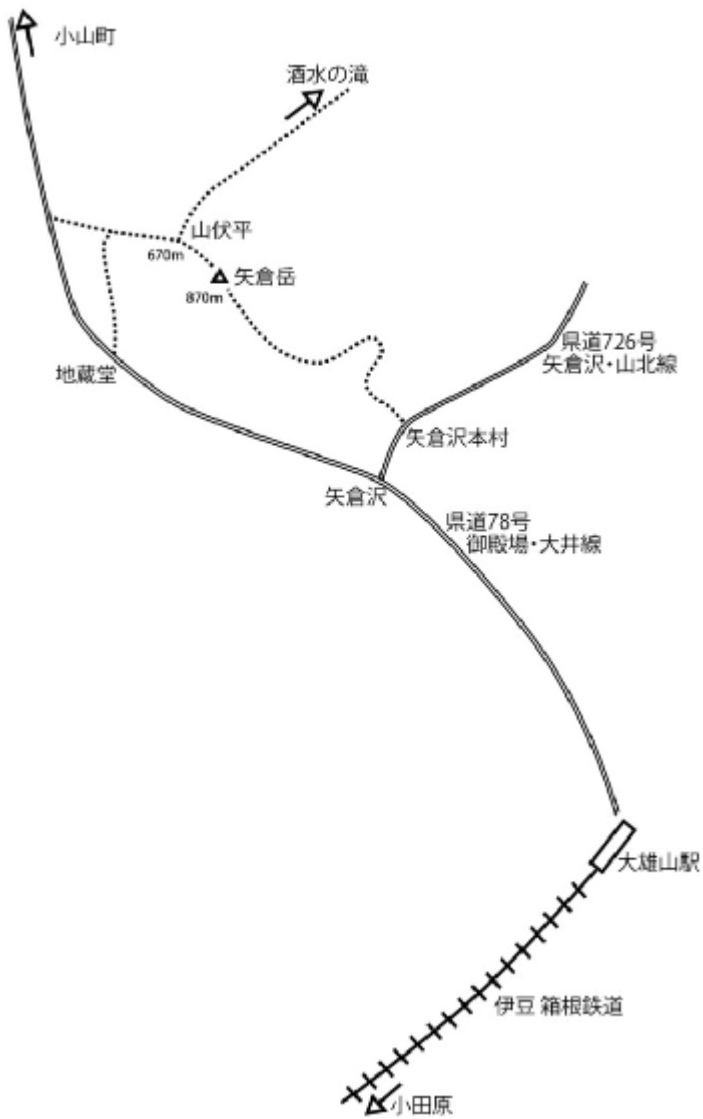


【建築談義で盛上った昼食会】

本美術館の特徴である葉山の「海」、「山」のロケーションを、随所で体感できるデザインであると感じました。

約2時間の見学会のあと、近くのレストランで昼食をとり、十分な時間が確保できたこともあり、美術館の建築談義などに話が盛り上がりました。

総務委員 二宮智美



の人以外にバードウォッチングの人が何人かいる。その人たちが望遠鏡を覗いている方向にはのすりが優雅に高く舞っている。下りは富士山の方角へと向かう。最初の20分ほどは滑りやすい赤土の急な坂道となる。その後、山伏峠の分岐点に着く。右手は酒水の滝に行ける。ここは直進して足柄峠方面へ向かう。途中振り返ると矢倉岳のほぼ全体が見えたりする。このあたりはゆるい勾配の道を上ったり下ったりすることになる。

檜を中心とした林の中をさらに30分歩くと、地蔵堂との分岐点に着く。ここは体力と時間にゆとりがあるなら、先の足柄峠の方向へ向かうのも良いでしょう。直進していくと万葉広場を通過して自動車道に出る。そして少し上ると万葉公園のバス停となる。ここは、神奈川の景勝50選でもある。足柄万葉公園には、万葉集

に多く詠まれた足柄道の歌碑が立っている。今回はここでUターンとなる。

先ほどの分岐点まで戻り地蔵堂へと下って行く。分岐点からは、すぐに間伐をされないままに陽が当らず、根が露出した木々の斜面を抜けて行く。分岐点からほぼ1時間で地蔵堂へ着く。そこでは手打ちうどんの店があり、冷たいビールも飲んで、山を登ってきたという小さいながらの達成感を味わうのであった。



テニス同好会だより



定例会報告

・平成21年4月11日(土)

練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターA・Bコート 参加12名
5月のテニス大会に向けてペアを決める時期となりました。



・平成21年6月13日(土)

練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターA・Bコート 参加11名
磯子区民戦の反省もあり、練習、ゲームと熱の入った定例会となりました。



・平成21年7月11日(土)

練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターBコート 参加8名
1面でしたが練習、ゲームと充実した内容でした。
久しぶりに、7名参加で暑気払いを兼ね「まいど」で二次会をやりました。



山中湖の合宿

5月9日(土)・10日(日) 場所:山中湖「三盛荘」参加者10名

恒例になりました山中湖の合宿。昨年は雨天でしたが、富士山がくっきりと見えるほどの晴天。テニス大会の一週間前ということでしたが今回は皆さん都合がつかず、日帰り3名、宿泊7名と少し寂しい合宿でしたが、天候にも恵まれ熱の入った練習となりました。

テニス大会に向けての作戦会議をして無事終わることが出来ました。



富士山バックに展望台にて記念撮影

1日目コートにて

プレー中

2日目コートにて

同好会会員募集中!

テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。特に女性大歓迎!お気軽に連絡下さい。
ご連絡の際はメールの場合でもお名前、連絡先の記入をお願いします。詳しくはホームページをご覧ください

連絡先: 玉野 045-894-8452 FAX893-6614

テニス大会報告

テニス大会観戦記 ～2009年5月17日、23日 横浜市磯子区民大会(ダブルス戦)～ 河内 崇
さて、今年もやってきました。我々テニス同好会が、日頃の練習の成果を存分に発揮すべき場、磯子区民大会です。今回は天候の都合上、2日に分けて戦いを繰り広げることとなりました。この大会の会場、磯子区岡村コートは、全部で7面ある非常に広々とした会場です。試合開始時間が近づくとつれ、続々と選手が集まり、会場はあっという間に熱気に包まれます。試合に向けてウォーミングアップをする者、リラックスをして余裕の表情を見せる者、そして我々のチームは、じっくりと対戦表を見て対策を確認し合います。今回はダブルス戦、我々のチームからは6組が出場しました。それぞれ試合が始まると、一段と緊張感が高まります。お互いペア同士、声を掛け合い、また、目で合図を送り合っています。スタンドからは拍手が鳴り、声援が飛びます。時間を追うごとに試合はさらにヒートアップしていきました。残念ながら、我々横浜支部テニス同好会、今回も上位入賞を果たすことはできませんでした。ただ、我々は建築に携わる人たちの集まりです。テニスも建築同様、ひとつずつ回を重ね、さらなる向上を目指します。来年こそ、上位入賞を！



K. Y. T 紅・白チーム集合写真



紅チーム、対戦相手とご対面



白チーム、対戦相手とご対面

第二回 横浜支部 テニス同好会 (K.Y.T) 総会報告(抜粋)

去る6月20日(土)横浜支部総会懇親会の後PM6:45からテニス同好会の総会を開催いたしました。会長の発案で昨年より支部総会の後に開催することになりました。出席者10名

議 題

1. 同好会趣旨

あくまでもスポーツの同好会です。仲良く楽しく出来るよう皆さんで協力する。

2. 役員改選 会長 内山(再任) 副会長 森山(再任)

役割分担: コーチ、コート予約・会計・連絡、記録・写真、ボール管理、企画(試合・合宿)

3. 活動計画

1) 定期練習 毎月第二土曜 pm5:00 ~7:00

2) 試合予定 磯子区民大会: 団体戦 5月

各自でペアを組み積極的に下記大会に参加する

磯子区民大会: 個人戦 9月、横浜市民大会: ダブルス 4月、シングルス 11月、

ヨコハマ シーサイドピアテニス大会(金沢振興センター): 個人戦 ダブルス 10月末

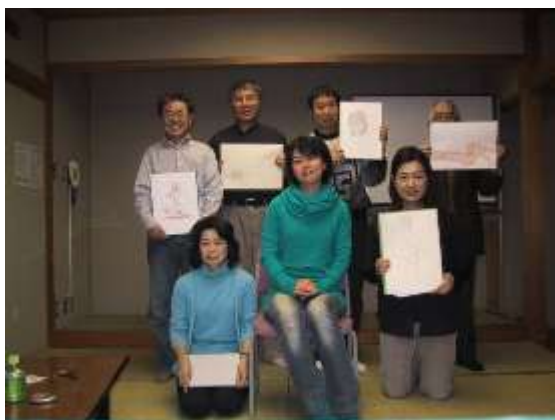
3) 合宿 年2回 5月、12月

4. その他 意見交換

『絵画同好会だより』

年の瀬の 12 月 27 日 恒例のデッサン会を「かながわ労働プラザ」にて開催。熱気 溢れる 2 時間半の裸婦デッサンは、あっという間に過ぎていきます。それぞれの好みの位置取りで、個性あふれるデッサン画が生まれました。続いて、沖縄料理店で「忘年会」、デッサンの反省やら、アカデミックな芸術の話題やら、下世話の話しまで、時間の経つのも忘れ、熱く語り合い、次回を期待しながら、美味しい沖縄の料理とお酒で 楽しい時間を過ごしました。

会員の作品



デッサン終了後、モデルを囲んで



画：藤井



画：高橋



画：高杉



画：石田



画：森山

第26回ワイン同好会に参加して

山手十番館、中庭奥のソメイヨシノをご存じでしょうか？去る4月2日、この枝振り豊かな桜を愛でつつ、今年最初のワイン同好会が開催された。桜色に色づいたロゼのシャンパン*1を掲げて乾杯！



初参加の私も、藤田会長を始め、旧知の諸兄に快く迎えて頂き、戸惑うことなく、長井氏によるワインの説明を耳朶に漏らさずと聴き入ることが出来た。

この会、発足より11年26回を数え、桜に因んだシャンパンでの乾杯は「ワイン同好会、春の恒例行事」とのことである。ワインは、氏自らが厳選し、それぞれの特徴を記したワインリストもまた、氏の手によるもので、押しつけの無い語り口から、純粹にワインを慈しむ思いが伝わり、私の期待は高まるばかりであった。

当日のワインはシャンパンのほか、(赤)・(白)2種類ずつ、5種類が用意され、齊康夫元専務から寄贈されたクロアチア産'05(赤)を加え、合計6種類19本。ドゥーブル・マグナムを換算すると、22本分のワインを参加者29名(過去最多)がテーブルを交えて楽しんだ。

厳選されたワインはどれも個性的でバランスが良く、中でも十番館のソムリエ氏の説明によれば、抜栓に一時間を費やしたCH・ド・フューザル'85*2(赤)は、状態も良く、マグナムボトルから、デキャンターに移され、高まる香りと共に、カベルネ種の持つ確かな熟成感、日頃ただ飲むだけの私にさえ、秀逸さを感じ取れた。また、カレラ・セントラルコースト*3,4は、(赤)・(白)それぞれの特徴が良く出ていて、ピノ・ノワールは、まろやかで飲み易く、シャルドネはフルーティーで、爽やかさが春の訪れを感じさせた。次にと考えていた、クロアチア産'05*(赤)は既に空。残念な思いを、「若さと甘みがある」ことなど、講評を聴き記すことで、次に巡り会う楽しみの糧とした。

使い慣れた会場とのことで、心安らぐ場の雰囲気、程良い料理が加わり、くつろぎの空間は終始笑顔が溢れていた。楽しいひとときを惜しみつつも、至福のひとときであったが故に、瞬きでお開きを迎え、余韻醒めやらぬまま会場を後にした。

周到にご準備頂いた皆様に、改めて感謝致します。

2009.04.12 稲毛恒男

ワインリスト

※1 アンリ・アペレ・ロゼブリュット NV(仏・シャンパーニュ)

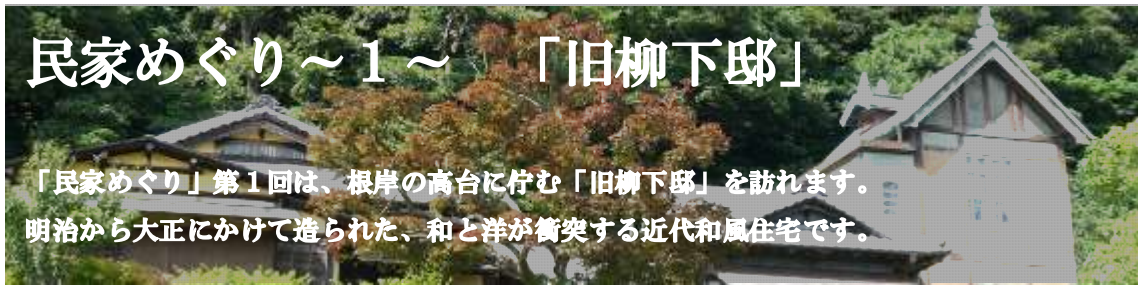
※2 CH・ド・フューザル'85(赤)(DMG)(仏・ボルドー)

※3 カレラ・セントラルコースト・ピノ・ノワール'07(赤)(米・カリフォルニア)

※4 カレラ・セントラルコースト・シャルドネ'07(白)(米・カリフォルニア)

CH・スミス・オーラフィット'92(白)(仏・ボルドー)





民家めぐり～1～ 「旧柳下邸」

「民家めぐり」第1回は、根岸の高台に佇む「旧柳下邸」を訪れます。
 明治から大正にかけて造られた、和と洋が衝突する近代和風住宅です。

＜外を積極的に取り込む開放的な空間＞

和風の西館・東館、洋館、離れの蔵からなるこの住宅は、廊下や縁側がこれらを囲い込むように配されています。さらに各部屋が庭や中庭・坪庭等の外環境に面して計画されている為、何処にいても光や風を体感でき、奥の部屋でもほんのり明るく空気溜まりもなく、どこに居ても寛いだ気持ちにさせてくれます。



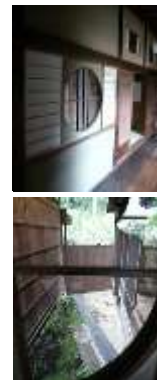
簾障子越しに外部が透ける



中庭に面する縁側空間



西・東館を隔てる中庭



円窓と坪庭

＜造作・素材 ～技巧の極～＞

脱衣室や浴室の天井に見られる精巧な木組意匠をはじめ、大胆かつ贅沢な和室造作、廊下突当りの洗面器や水栓、蔵扉枠の黒漆喰に至るまで、全体的に凝った造りが目につきます。和室床の間一枚板等、現在入手し難い素材も多く見られますが、高価な材料の割に不思議と嫌味を感じさせない上品さがあります。建具にも目を見張るものがあります。キメ細い棧や引戸内蔵障子等もそうですが、特に簾障子は優れ物で、蹴込部に相当する個所に格子のものと無双のものがあ、後者は用途に応じ下方からの風や冷気を制御する意図が見て取れます。



浴室の折上天井



黒松床柱と網代天井(東館)



モダンな洗面器と水栓



蔵扉の黒漆喰



簾障子(無双)

＜和風外観と洋館の対比、離れの蔵＞

和風部分は、下見板と漆喰による外壁、入母屋のムクリ屋根に出桁の屋根が幾重にも折り重なり、同時に屋根が軒下空間を造り、陰影と相まって複雑で深みのある外観に仕上がっています。外観が複雑であるにも係らず控え目に見えるのは、アイストップ性の高い洋館の存在に依るのでしょう。洋館内部は、1階は畳に絨毯敷、さらにテーブル・赤い椅子が置かれるという、如何にも大正らしいしつらえです。2階は1階と対照的で、床にヘリンボーン、入口枠に仰々しい額縁造作、天井の漆喰の彫込等、当時の洋風建築に特化した印象です。離れの蔵にも、入口の重厚な観音扉や枠廻り、前室の窗外側の木枠に嵌め込まれた鉄格子等、防犯を前提としながら意匠的に優れたデザインが見られます。



西館外観



東館と洋館外観



洋館内部(1階)



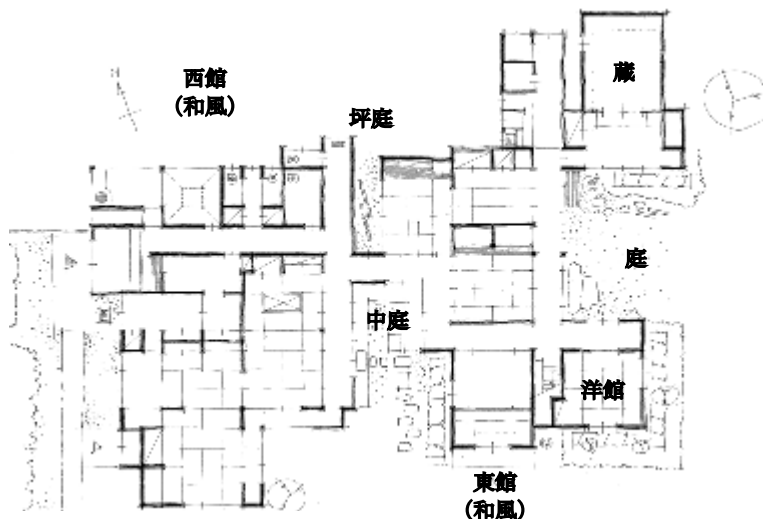
蔵外観と前室窓の鉄格子

＜音・五感・心＞

ここにしばらく居ると様々な音に出会います。ガラス風鈴、水琴窟の音、木々の触れ合う音、鳥の囀り等。そして、大変心地よい響きとして残ります。

「旧柳下邸」は、贅沢な造りが一見豪華主義を連想させますが、こうしたこだわりの中にも、その家に訪れる人に対する最大級の敬意としてのもてなしが空間の造りと共に五感を通して見え隠れし、私達を大いに和ませてくれました。現在は管理される方々のご苦勞の甲斐あって、建物や庭の手入れが見事に行き届いています。こうしたところは、家主が持っていた心を見事に継承していると言えるのではないのでしょうか。

広報委員 桶師徳行



「旧柳下邸」

所在地：横浜市磯子区下町 10-6

根岸なつかし公園内

交通：JR 根岸線根岸駅下車

徒歩 10 分

B班 (京都御所-桂離宮-待庵)



F.L.Wright が日本から学んだもののひとつか

安藤忠雄の原点見たり
京都らしさ・・・路地

樺澤正夫 自営

京都御所 卍園祭 弁柄格子 宵山
坪庭 生絹(すすし) 物集女街道
加茂川・高野川・鴨川
大堰川・桂川

竹林亭・月の名所
され・さび・繊細で華麗 清境
対称と非対称 平和・品位・美学
不完全なものを美とする
六つの円窓・金箔貼・突上窓
八つ窓・三疊題目・流れ手水
連子窓・土間庇・忘れ窓
竹垣・林泉・竹縁・青白市松
桂離宮(桂山荘)小堀遠州

樺澤正夫 自営

京都ワンショット
(部分から全体)
南禅寺 湯豆腐
妙心寺 山門の龍
妙光院 茶室 大徳寺 塔頭
聴竹居 和と洋の環境建築
京都御所 即位の大典
妙喜庵 待庵 茶の湯 室床
立体的天井構成 利休好み
分割された壁面構成
床框(丸太) 床柱(地山丸太)
極限の侘び表現

写真は撮らず 頭に焼き付けたものを思い起こしてみた
白石賢司 (株式会社 松本陽一設計事務所)



氷雨来る桂離宮の竹の垣
加山昇市



修学院離宮 浴龍池 隣雲亭
月夜の晩に、船を浮かべて観月会
なんてロマンチック!

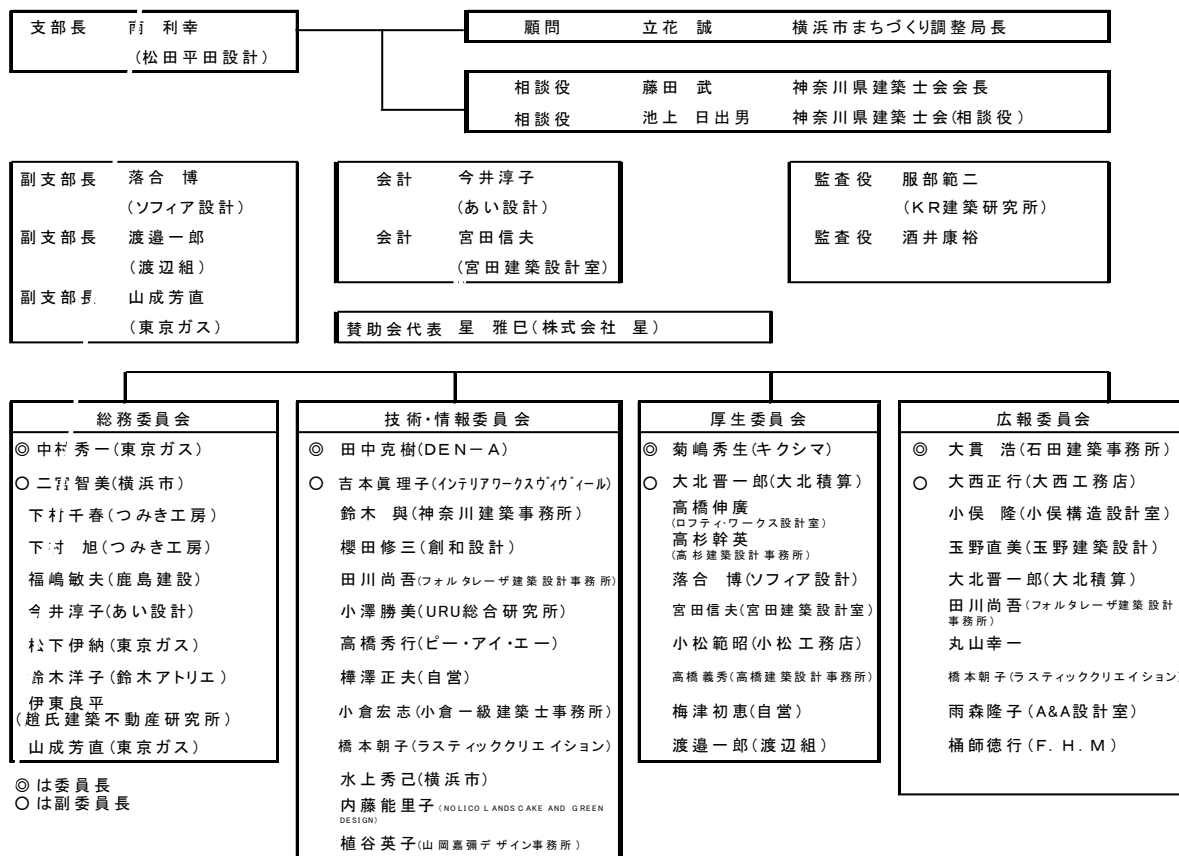
G班 鈴木 與 (株) 神奈川建築事務所

平成21年度 活 動 計 画

自 平成21年4月1日～ 至 平成22年3月31日まで

種別	事業内容
重点施策	1. 会員(賛助会員)同士の交流と情報交換
総務委員会	1. 各種会議の開催 通常総会の開催(6月)役員会(年4回) 各委員会(合同委員会4回を含め各10回) 正副委員長会議(随時) その他小委員会(企画・賛助) 2. 会員及び賛助会の拡大 賛助会員との交流 3. 建築関連講演会、見学会(美術館建築シリーズ)の企画運営
技術・情報委員会	1. 建築技術・情報に関する講習会、勉強会、懇談会等の開催 ・勉強会:(イスを創る) 2. 建築セミナー及び建築・街づくりツアー等の開催 ・見学会:(製品工場見学 亜鉛メッキ工場、塗装工場・・・製造過程を知る) ・サロン:(横浜のまちづくり:150歳の港湾都市「横浜へ」)パートⅡ) 3. 他会・他団体との情報交換や企画、展示会の協力、後援や合同開催 ・(横浜150周年のイベント参加、協力<神奈川インテリアコーディネーター協会(KCIA)>)
厚生委員会	1. 親睦会の開催 2. 日帰りバス研修旅行の開催 3. 同好会(テニス、絵画、ワイン、ゴルフ)活動の実施
広報委員会	1. 横浜支部だよりの年3回発行(総会・委員会・同好会の活動報告) 2. 横浜支部ホームページの充実のため、古民家を探訪し、記事として掲載する 3. 本会及び他支部との連携強化

平成21年度神奈川県建築士会 横浜支部組織図



事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町2-22 神奈川建設会館
窓 口 大平由之 TEL 045-201-1284
FAX 045-201-0784

編集後記

今回は年度初めの総会及び建築探偵でおなじみの藤森照信さんの講演をはじめ、各同好会の活動、各委員会の事業活動も多くあり非常に内容の濃いものとなりました。

平成21年度も3ヵ月を経ていますが残りの期間においても更なる活動を実行して頂き、会員間の交流及び増員につながればよいとかんじております。

～お知らせ～

厚生委員会からのお知らせ～

夏の親睦会

日時：平成21年9月4日（金） 18：30～20：30（雨天決行）
集合 18：20（時間厳守）

場所：横浜赤レンガ倉庫 BEER NEXT
横浜市中区新港1-1-2 横浜赤レンガ倉庫 2号館 3階
(TEL:045-226-1961)

会費：支部会員&建築士会会員 3,000円
賛助会会員&非会員 5,000円

申し込み：8月21日までに同封の用紙にてFAXにてお申し込みください

* 先着50名様とさせていただきます

■ 広報委員会からのお知らせ～ 横浜支部 ブログへの投稿をお待ちしております!!!

新しくしました横浜支部のホームページのブログへ書き込む時のIDとパスワード(PW)です。

ID: yokohama-sibu PW: blog4us

● 横浜支部賛助会の皆様へ

頁の最下段に会社のロゴなどの広告掲載(バナー形式)を無料にて実施いたしました。 広報委員会

□ バナー作成について

- ① バナーは、縦35mm。横105mm。解像度を300pixelでお願いします。
企業スローガンや、住所や電話番号を記載されても構いません。
原稿はカラー(支部のホームページに記録)。実際に会員配布されるものは、白黒です。
- ② 広報委員会(大貫)まで、メールにて送信。メールアドレス ohnuki@dream.big.or.jp
- ③ ご不明な点は、広報委員会(大貫)までお問い合わせください。



編集者(あいうえお順)

雨森隆子・大西正行・大北晋一郎・大貫 浩・桶師徳行・小俣 隆・田川尚吾・玉野直美・橋本朝子・丸山幸一